

胃内視鏡検査を受けられる方へ

【 検査方法 】

胃内視鏡検査は、口または鼻から内視鏡（カメラ）を入れて、食道・胃・十二指腸を調べます。

それぞれの長所、短所や適応について下記の表を参考にしてください。

当健診センターでは、嘔吐反射や苦痛の少ない経鼻内視鏡検査を推奨しております。

特徴	経口内視鏡	経鼻内視鏡
前処置	●消泡剤と粘液除去剤を飲みます ☆ 咽頭反射を抑える為に咽頭部に十分麻酔をかけます	●消泡剤と粘液除去剤を飲みます ☆ 鼻腔のむくみをとる薬や麻酔液を鼻に点鼻し、麻酔剤を塗布したチューブを挿入します
咽頭反射の有無	カメラが舌に触れることにより、咽頭反射が起こりやすい（鎮静剤の使用により多少軽減されます）	カメラが舌に触れないので、咽頭反射は起こりにくい（ただし、全く反射がなくなるわけではありません）
検査後の不快感や痛み	咽頭痛・腹満感などが起こる場合があります	鼻の痛み・鼻汁・鼻出血・耳閉感・咽頭痛・腹満感などが起こる場合があります
適応		●咽頭反射の強い方
不適応	●局所麻酔薬（ネオパイン）にアレルギーがある方	●血液疾患などによる出血傾向がある方 ●鼻の既往がある方、副鼻腔炎・蓄膿症・アレルギー性鼻炎がある方 ●局所麻酔薬（ネオパイン）にアレルギーがある方

※ 検査当日、義歯（入れ歯）については自己管理をお願いします。

《 鎮静剤について 》

経口内視鏡の場合、ご希望により鎮静剤（緊張を和らげる薬）を注射します。

- ※ **ただし、車やバイクの運転はできません。**
- ※ 心臓疾患・脳血管障害・呼吸器疾患・緑内障（高眼圧）治療中の方は、使用できない場合があります。
- ※ **70歳以上の方・授乳中の方はご利用できません。**
- ※ **鎮静剤を使用した場合は、2,200円の追加料金となります。**
- なお、鎮静剤は事前に予約が必要です**
（経口のみ予約可・経鼻は鎮静剤予約不可）

《 組織検査について 》

胃内視鏡検査を実施するにあたって、検査中に異常所見（潰瘍・ポリープ・ビランなど）を認め、医師の判断で必要とした場合、病理検査（悪性の有無を調べる検査）を行うことがあります。

- ※ 組織検査を受けた場合は、保険扱いとなり一部ご負担金をいただきます。（保険証をお忘れの方は、全額自己負担となります。）
- ※ 保険扱い分は、1階会計窓口での支払いとなります。

《 抗血栓薬内服中の方へ 》

- ※ **抗血栓薬（血液をサラサラにする薬）は中止せず、内服継続してください。（抗血栓薬中止による脳梗塞、心筋梗塞の発生が非常に懸念されるため）**
- ※ **抗血栓薬を内服中の方は、出血をきたしやすいため生検（組織検査）を行うことはできません。生検が必要だと判断された場合は、紹介状を発行致しますので、かかりつけ医療機関（主治医）を受診してください。**

《 サプリメントの内服について 》

- ※ **胃内視鏡検査を受ける方は、前日の朝よりサプリメントの内服を中止してください。**

《 胃内視鏡検査が適さない方 》

- ※ 妊娠中、妊娠の可能性のある方